

第2回総合計画審議会 基本構想（案）に対する意見等への対応

No.	意見等概要	対応方向
第1部 第1章 第1節_策定の趣旨		
1	・総合戦略や定住自立圏共生ビジョンとの関係性や位置づけ等について整理する必要がある。	・第3次総合計画第1期基本計画の巻末に資料編として関連する計画を記載し、整理する予定です。
2	・「大胆に挑戦する」という表現について、まちづくりの目標等のどこが該当するのか不明。	・今後20年を見据えて取り組む様々な施策全てに対して挑戦するという意図となります。
3	・「コロナ禍後の社会の在り方の変化やDXへの対応など、地方公共団体を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、こうした社会経済情勢の変化が人々の暮らしにもたらした影響の大きさは計り知れない。」を「コロナ禍後の社会の在り方の変化や「AI×DXが牽引する情報革命」など、地方公共団体を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、こうした社会経済情勢の変化が人々の暮らしにもたらす影響の大きさは計り知れない。」に修正すること。	・御指摘を踏まえ、P.1の17行目から19行目を以下のとおり修正します。 【修正前】 コロナ禍後の社会の在り方の変化やDXへの対応など、地方公共団体を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、こうした社会経済情勢の変化が人々の暮らしにもたらした影響の大きさは計り知れない。 【修正後】 コロナ禍後の社会の在り方の変化やAI、DXへの対応等のデジタル技術の進展など、地方公共団体を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、こうした社会経済情勢の変化が人々の暮らしにもたらした影響の大きさは計り知れない。
第2部 第3章 第1節_市民・事業者等の声 第2節_まちづくりの主な課題		
4	・「市民・事業者の声」について、意見そのものは必要であるが、各ヒアリング等の結果としてそのまま記載することは避け、書きぶりを再考されたい。 ・各主体からのヒアリング・アンケートの結果が、様々な書き方になっているのが気になる。教育に係るアンケートがなかったのかも気になる。	・御指摘のとおり、アンケートやヒアリング等の結果において、記載のない分野もあるため、P.11からP.13の「第1節 市民・事業者等の声」を削除し、アンケートやヒアリング等の実施結果と本市の動向を踏まえ、分野ごとにまちづくりの現状と課題を整理することとして前文を修正します。
5	・「まちづくりの主な課題」について、それまでの市民や事業者から得られた意見、優先順位が反映されておらず、全体を通して一般的と感じた。どの市町にも当てはまる内容に思える。東近江市の実情に即した書きぶりにされたい。 ・市民、事業者等の声から得た優先順位に沿っているように見受けられない。	・御意見については、今後実施する各施策の中で、本市の実情に応じた施策を展開できるよう取り組んでまいります。
6	・旧市町の団体が残っている等、合併以前の制約が改善されていない。旧市町間	・P.14の「地域共生」の分野において、「地域間の情報共有や連携」について追記するとともに、P.22の目指すべき将来

	の連携がうまく図られていないことから災害時の対応等が懸念。	都市像の記載の中で、お互いの文化や価値観の違いを相互に理解する旨、追記します。
7	・特別支援教育や不登校、いじめ、保護者対応など、多くの課題があり、特に東近江市では多国籍な子どもへの対応が多い。東近江市の実情に則した学校現場での対応等を踏まえた学校教育の課題にも言及いただきたい。	・P.15の「教育・文化・スポーツ」の分野において整理しており、これらの課題を克服するため、今後実施する各施策の中で取り組んでまいります。
8	・高齢者の健康寿命を伸ばす中で、医療に関わらなくてもよい環境の実現や、DX等の活用により、いわゆる弱者と呼ばれるような人々全員が生き生きと幸せに暮らせるまちづくりを考えることが重要。	・今後実施する各施策の中で、AIやDX等のデジタル技術を最大限活用し取り組んでまいります。
9	・滋賀県は障害者に対してフォローが手厚いが、発達障害等の区別が、障害者に対する差別につながらないよう、共生社会を今後どのように作っていくかという観点を考えるべき。 ・自分の考えを言葉にする方が難しい方も多いが、社会の方で自然と受け入れられるような体制を作っていく必要がある。	・今後実施する各施策の中で取り組んでまいります。
10	・「人権」について、もっと多様であり複雑化している。時代性、背景を鑑み加筆されたい。	・P.16の「人権」の分野において、時代や背景にも触れながら、複雑多様化が進む旨、記載します。
11	・「ネイチャーポジティブ」の実現に向けた取り組みが必要」について、「「ネイチャーポジティブ」の理念に基づいた地域資源の持続的利用の実現」のような表現に修正されたい。	・御指摘のとおり、P.17の10行目、11行目を修正します。 【修正前】 「ネイチャーポジティブ」の実現 【修正後】 「 <u>ネイチャーポジティブ</u> 」の <u>理念に基づいた地域資源の持続的利用の実現</u>
12	・企業誘致等、税収を確保する方法についても記載されたい。	・P.20の「税務」の分野において、地域産業の活性化等を通じた市税の確保について追記します。
13	・「行政経営」について「デジタル」に関する記載がない。デジタル・AI導入について課題はないのか。 ・DXをどうとらえるのか、DXを推進した先の人材育成の在り方やマネジメント等、AIやデジタルを用いて豊かさをどのように実現するか、企画総務に限定せず検討が必要。	・AIやDX等のデジタル技術については、目的ではなく手段であると考えするため、全体を通じて捉えるとともに、今後実施する各施策の中で、AIやDX等のデジタル技術を最大限活用し取り組んでまいります。

第3部 第2章_将来都市像 第3章_基本方針 第4章_まちづくりの目標		
14	・将来都市像に「一人一人が豊かさを実感できる」とあり、基本方針で「質の高い暮らし」や「住み続けたいと実感できるまち」との表現があるが、基本方針を実現するために最も重要な「豊かさ」は心の豊かさとする。「豊かさ」をどうとらえるのかについて加筆されたい。	・P.22の19行目に、物心共に豊かな暮らしを目指す旨、追記します。
15	・「出会いから結婚・妊娠・出産・子育てまで」という言い方は対象が限定的。 ・出会って結婚することが質の高い暮らしにつながるようなニュアンスが伝わってしまう。 ・現状の書きぶりでは、「結婚や妊娠」をしなければ質の高い暮らしにつながらないように見受けられる、表現について再考されたい。	・P.23の14行目、基本方針2の目指すべきまちの姿について、御指摘のとおり対象が限定的なため、多様な子育てニーズに応じた切れ目ない支援と修正します。
16	・今後、子どもたちのスマホとの付き合い方についてどのように考えればいいのか記載することも検討されたい。 ・デジタル時代であるからこそ、アナログな感受性や創造性を豊かにするために東近江市の豊かな森林などの地域資源を生かしてバランスよい教育を行う等の方向性は考え得る。	・P.24の9行目、10行目において、豊かな自然や歴史等をいかしたデジタル時代における子供の健やかな成長を図る旨、追記します。
17	・東近江市は外国籍の子どもが全国平均の倍であり、特別支援学校の数も増えている。そういった子どもたちが社会の中でどのように暮らしていくのかなど、テクノロジーと掛け合わせて具体的な方法を検討することは重要。	・今後実施する各施策の中で検討してまいります。
18	・単身世帯が増える中、相互扶助とともに「自立」も重要。自立した健康な高齢者が元気であるまちということは掲げた方がよい。	・P.24の36行目において、自立支援を推進する旨、追記します。
19	・中学校の部活動が少子化により維持困難となるなどの課題がある中、教育・スポーツ・文化を、地域全体で子どもたちに教え、共に育んでいくという視点も盛り込まれたい。	・P.25の14～16行目で目指すべきまちの姿に追記する上で、今後実施する各施策の中で取り組んでまいります。
20	・これからの20年は違いを見つける、知ることを打ち出していくことが必要。合併した市町についても同様に違いを知る、楽しむということを重要視するべき。産業分野についても異なる事業の掛け合わせで色々な発展があると思われ	・P.22の17行目に「お互いの文化や価値観の違いを相互に理解し、」を追記する上で、今後実施する各施策の中で取り組んでまいります。

	る。そのようなニュアンスを追記いただきたい。	
21	・子育てや高齢者に関する記載はあるが、将来の東近江市を担うのは現在の子どもたちであることから、子どもに関する課題や将来の目標についても記載を検討されたい。	・子供の視点に立った具体的な取組等については、今後実施する各施策の中で取り組んでまいります。
22	・「まちづくりの目標」について現在の内容では基本計画の導入のようになっている。 ・まずは政策ごとつけているタイトルについて、20年後の目指すべき姿を説明し、大きな方向性を示した上で、その方向性に施策が紐づいていると望ましい。バックキャスト型で計画に落とし込むという流れが分かるよう整理が必要。 ・「まちづくりの目標」に記載する施策は粒度が細かすぎると今後の展開を縛ってしまう面がある。レベル感の整理が必要。 ・「基本方針」以降について、各取組を推進した結果どのようなまちを目指していくのかが分かりにくい。記載ぶりを検討されたい。	・まちづくりの目標における各政策について目指すべきまちの姿を追記します。